

アダプト・プログラムの導入について

～導入の背景～

まちづくりは行政と地域住民が一緒に作る共同作業です。そのためには、市民と行政がよりよいパートナーシップの関係を築くことが必要です。

行政は情報を公開することにより、市民との情報の共有化を図り、市民の意見を聞くとともに市民参加を促します。また、市民も自分たちのまちづくりのためにできることを行い、企業や地域もこれに加わって支援や協力を行い、一緒になって作り上げていきます。

まちづくりに関心がない、市民がまちづくりに参加しにくいということが現状として、少なからずあると思います。このため、ボランティア活動を活発にしたり、市民、企業、団体、地域（以下「市民」という。）がまちづくりに参加しやすい仕組みをつくり、互いに助け合う。そんな積み重ねや連携が住みよいまちにつながっていくと考えます。参加のための一つとして、アダプト・プログラムを取り入れます。



☆アダプト・プログラムとは・・・

ボランティア活動の新しい制度として、1985年米国テキサス州運輸局がハイウェイに導入したのが原点です。

アダプトは「養子縁組する」の意で、アダプト・プログラムは「里親制度」等と訳されています。具体的には、ボランティアとなる市民と道路とを「養子縁組」させ、ボランティアとなる市民が「里親」となり、「養子」である道路の清掃や美化活動を定期的に行うものです。行政側は、ボランティア保険の加入や清掃用具の提供をするなど、ボランティア活動のサポートを行います。

☆導入の目的

市民の環境等への意識を高めるとともに、市民と行政との協働によるまちづくりを推進します。

☆導入のための要点

① 清掃美化する区画をアダプト（養子縁組する）

市民が、一定区画の公共空間を自らの「養子」とみなし、この養子の「里親」として、定期的・継続的に清掃など面倒をみます。

② 市と市民とのパートナーシップ

市と市民が協力し合い、それぞれの役割を果たしプログラムを円滑に進めます。清掃などの活動は里親が担い、市は活動に必要な支援を行います。安全のためのボランティア保険への加入、公共空間の管理者との調整も市の役割です。



③ 市と市民とのアダプトの合意

継続的に活動を進めるため、役割分担についての両者の合意を明確にする必要があります。

④ アダプト・サイン

里親の名称を記したアダプト・サインボードを掲出します。里親の励みに加えて、「美しいまちづくり」に向けて、地域社会に対して啓発効果が期待できます。



☆導入による効果

🌸 住民の環境保護意識を高める

道路等、公共空間の環境が美しく保たれるだけでなく、近隣に住む方々をはじめとする住民の環境保護意識が高まります。

🌸 ポイ捨て減少、観光面でもプラス

ドライバーや歩行者に活動状況や表示板を見せることにより、ポイ捨てを減らす効果も期待できます。

🌸 住民と地域社会と行政間の連帯感の向上

環境への関心が膨らみ活発な住民意見がまちづくりに反映され、さらにはその空間を中心にした新たなコミュニティ形成や地域活性化にもつながることが期待され

ます。

 地域への愛着を深める


「自分の町は自分できれいにする」という住民の地域への帰属意識、愛着心を高めます。

 費用の節約


単に散乱ごみ収集にかかわる費用が節約されるばかりでなく、管理の質が高まります。


☆導入が考えられる公共空間

 道路（市道、林道、農道、登山道）

 河川

 公園・広場

 集会所・公民館

 駅周辺 等

